

令和5年度 東京情報大学総合情報研究所プロジェクト研究
研究実績報告書

1. 研究課題名

佐原三菱館の歴史に関する調査（川崎財閥の黎明期に関する調査）

2. 研究組織

区分	氏名	所属・職名
研究代表者	堂下 浩	総合情報学部 総合情報学科・教授
研究分担者	井関 文一	総合情報学部 総合情報学科・教授
	伊藤 幸郎	総合情報学部 総合情報学科・非常勤講師

3. 連携先団体等

団体名	担当部署
香取市役所	生活経済部市民協働課
	総務企画部企画政策課
	教育部生涯学習課

4. 研究期間

2023年4月1日～2024年3月31日（5年計画の1年目）

5. 研究の目的

佐原三菱館は千葉県有形文化財に指定される歴史的な建造物である。しかしながら、川崎銀行の母体であった川崎財閥の資料は戦時下で焼失したことで、その詳細は十分に解明されていない。

そこで本調査では同館に関わる資料、特に同館を建設した川崎銀行、及び川崎財閥に関連する資料を収集し、川崎銀行が佐原に荘厳な支店を建設した理由を解明する。さらに川崎銀行及び川崎財閥の経営実態に関しても解明していく。

6. 研究報告

1. 初代・川崎八右衛門が銀行を作る経緯について

1.1 初代 八右衛門の事業家としての歩み

1852年、初代・川崎八右衛門の生家である川崎家は水戸藩郷士であるものの、茨城県南や千葉県下総を中心に回漕事業の拠点を築いた。

1863年、初代・川崎八右衛門は深刻な財政難に陥っていた幕末期の水戸藩から銭鑄造の許可を得ることで、水戸藩の財政改善に貢献した。鑄銭事業への

参画を通じて得られた利益は、北海道開拓事業への関与（1869年以降）や煉瓦製造事業への参入（1872年以降）といった事業拡大のための重要な資本となった。

1.2 川崎銀行の設立

初代・川崎八右衛門は、河岸問屋業、煉瓦製造事業、水戸藩鑄銭事業などの事業から得た利益をもとに、明治維新後の新たな時代における川崎財閥の礎を築く。

警視庁の川路利良が煉瓦製造事業に徒刑囚を送り込むことを初代・川崎八右衛門に申し入れた（半ば強制的に接收）。その見返りとして、初代・川崎八右衛門は警視庁から警視庁経費現金取扱人と警視庁御用金為替方取扱に任命され、政府からの信認を徐々に高めていく。

その後、千葉県や静岡県の為替方取扱にも任命される。なお、静岡県は不透明な会計処理の懸念がもたれた別の為替方を解任し、川崎組と新たに契約した経緯がある。

1880年に銀行法が制定されるに伴い、初代・川崎八右衛門は、川崎銀行を創設した。川崎銀行は、一般預金の受け入れ、貸出業務、為替業務など、幅広い金融サービスを提供し、日本経済の近代化と発展に貢献した。同時期に三井組も三井銀行を設立。

2. 第百銀行（旧・川崎銀行）の消滅について

2.1 戦時統制下における銀行合併

1943年4月1日、太平洋戦争時において日本国家の軍需資金の需要に応えるという目的で、三井銀行と第一銀行、ならびに三菱銀行による第百銀行の合併が決定された。

第百銀行は、金融事業を主体とした母体財閥である川崎財閥の中枢を担う役割を果たしていた。戦時体制下において第百銀行が三菱銀行に吸収合併されたことにより、川崎財閥としての機能は事実上解体。

2.2 第百銀行の合併に関する解明点

戦後に公開された『日本銀行百年史』、『昭和財政史』、『三井銀行100年のあゆみ』、『第一銀行史』そして『三菱銀行史』といった合併対象となった銀行に関連する変遷史を分析したところ、断片的ながらもその合併経緯を解明することができた。

三井銀行の万代・頭取による三井銀行と第一銀行との合併決意に感化された日本銀行の結城・総裁の斡旋に従って、三菱銀行は第百銀行を合併する決定をした旨が述べられていた。三井は川崎側を良きパートナーとみなしていなかった。つまり、結城は、三井銀行と第一銀行の合併が実現することで、同様に三

菱銀行と第百銀行とを合併させるといった決意を固めた。

万代順四郎と結城豊太郎とが銀行合併に関する対話を行ってから、僅か11日間での早期決着が図られた。その間、銀行合併に関する議論は秘密裡に進められており、「秘匿の決着」が図られていたといえる。

結城豊太郎の意向で三菱銀行と第百銀行の合併が進められた。つまり、三井の万代が中心となり、第百銀行側の経営陣を蚊帳の外に置いた状態で、第百銀行と三菱銀行の合併構想が水面下で進められていた可能性が示唆される。

7. 成果の公表

① 学会誌への発表

本研究成果は、伊藤幸郎・堂下浩「戦時経済下における銀行の合併経緯に関する研究—合併談から紐解かれる第百銀行に着目した考察—」というタイトルにて、査読論文として2024年2月19日に受理、『パーソナルファイナンス研究』No. 10へ掲載(2024年3月に刊行)。

② 公開講座

タイトル： 川崎銀行の誕生ヒストリー ～佐原三菱館の原点を知る～

実施日時： 令和6年2月9日 午後2時から午後4時 午後1時30分開場

実施会場： みんなの賑わい交流拠点コンパス 小野川ホール

③ パネル展示

タイトル： 話譚「佐原三菱館」を知る

開催期間： 令和6年1月26日から2月13日まで

開催場所： みんなの賑わい交流拠点コンパス 1階展示スペース

④ テレビ放映

テレビ局： ケーブルネット296

放送番組： ふるさとチャンネル「香取市 地域連携フォーラム」

放映期間： 令和6年3月16日から3月31日の午前9:00～9:30に放送

8. 総評

香取市 市民協働課

「佐原三菱館（旧・川崎銀行佐原支店跡）」をテーマにした公開講座では、川崎銀行を建設した川崎財閥の初代・川崎八右衛門の金融業に着目した先見性や佐原との関連性、建設に至る経緯などを知ること、香取市民が佐原三菱館の歴史的重要性を理解し、有形文化財の保存について考える機会となりました。

今後も、香取市の文化財を香取市民がいつそうの愛着を深めていただくための機会創出を、東京情報大学と協力しながら進めていく所存です。引き続き、東京情報大学からのご支援を宜しくお願い致します。